「スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）」事業
－グローバル・リーダーに求められる資質・能力－
Super Global High School:
Competency Required for Global Leaders

京都大学大学院教育学研究科准教授　石井　英真
ISHII Terumasa (Graduate School of Education, Kyoto University)

キーワード：スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）、
グローバル・リーダー、海外留学

はじめに

平成25年６月に閣議決定された「日本再興戦略―JAPAN is BACK―」において、「グローバル化に対応した教育を行い、高校段階から世界と戦えるグローバル・リーダーを育てる」ため、「新しいタイプの高校を創設する」ことが提起された。これを受けて文部科学省は、平成26年度から「スーパーグローバルハイスクール（以下、ＳＧＨ）」事業を開始した。この小論では、筆者も企画評価会議協力者としてかかわった、ＳＧＨ事業の目的と概要を説明するとともに、ＳＧＨを通して見えてくるグローバル・リーダーに求められる資質・能力について述べる。

ＳＧＨの目的と概要

文科省は、ＳＧＨの目的を、「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」としている。そして、その事業概要については、「国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を『スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）』に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める」と述べている。対象となるのは、国公私立高等学校と中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）で、指定期間は５年間、１校あたりの予算は約1,600万円（上限）である。

平成26年度のＳＧＨ指定校については、応募があった246校（国立10校、公立117校、私立119校）から、書面審査、ヒアリング審査を経て、取り組みの特徴、地域性及び国公私のバランスも配慮しつつ、最終的に56校が選ばれた（次頁の表を参照）。56校の内

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

訳は、国立4校、公立34校、私立18校であり、「国際バカロレア（ＩＢ）」認定校や「スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）」指定校も含まれている。ＳＧＨ校同士の情報共有のためのネットワークを構築し、研究協議会を主催する幹事校には、筑波大学附属高等学校が選ばれた。

表　スーパーグローバルハイスクール指定校一覧

	都道府県	学校種	学校名	構想名※
	北海道	道立	北海道登別明日中等教育学校	AKB Future Project『世界の明日を創る』
	北海道	市立	北海道札幌開成高等学校	さっぽろ発「Think globally, act locally」を実践するグローバル人の育成
	北海道	私立	札幌聖心女子学院高等学校	Active Dialog －共生の実現へ－
	青森県	県立	青森県立青森高等学校	ロジスティックス戦略を視野に入れた人材育成プログラムの研究開発
	宮城県	県立	宮城県仙台二華中学校・高等学校	北上川，メコン川をフィールドとした世界の水問題解決への取組
	茨城県	県立	茨城県立土浦第一高等学校	生物資源を活かすビジネスを起業する課題研究で育むグローカル人財
	群馬県	県立	群馬県立中央中等教育学校	「地球市民としての日本人」の育成を土台としたグローバル・リーダー育成
	群馬県	市立	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	高・大・産連携による日本を牽引するグローバル・リーダーの基盤づくり
	埼玉県	県立	埼玉県立浦和高等学校	新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成
	埼玉県	国立	筑波大学附属坂戸高等学校	先進的な総合学科を活かした持続可能なアセアン社会を創るグローバル人材の育成
	千葉県	私立	渋谷教育学園幕張高等学校	多角的アプローチによる交渉力育成プロジェクト
	東京都	私立	渋谷教育学園渋谷高等学校	探求型学習を、いかにして「行動できるリーダーの育成」につなげるか
	東京都	私立	早稲田大学高等学院	多文化共生社会を創造するグローバルリーダー育成プログラム
	東京都	私立	佼成学園女子中学高等学校	グローバル人材に必要な知的基盤の醸成
	東京都	私立	順天高等学校	グローバル社会で主体的に活躍する人材育成のための研究開発
	東京都	私立	品川女子学院	学校と社会が連携し、「起業マインド」を持つ女性リーダーを育成する研究
	東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校	実社会や大学との連携による正課授業に連動させるデュアル・グローバル・プログラムの研究開発
	東京都	私立	国際基督教大学高等学校	帰国生と国内生の相互理解教育を発展させたグローバルリーダー育成プログラム
	東京都	私立	玉川学園高等部・中学部	国際機関へキャリア選択できる全人的リーダーの育成
	東京都	国立	お茶の水女子大学附属高等学校	女性の力をもっと世界に ～目指せ未来のグローバル・リーダー～
◎幹事校	東京都	国立	筑波大学附属高等学校	小・中・高・大が連携した課題解決によるグローバル人材の育成
	神奈川県	県立	神奈川県立横浜国際高等学校	気づき、考え、行動するグローバル・リーダー育成の戦略的プログラム
	神奈川県	市立	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	内外の多様な教育資源を活用したグローバル・リーダー教育の研究開発
	神奈川県	私立	公文国際学園高等部	世界へ飛躍する為の総合学習と模擬国連を軸としたグローバルリーダー育成
	富山県	県立	富山県立高岡高等学校	ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダーの育成
	石川県	国立	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	北陸からイノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーの育成
	福井県	県立	福井県立高志高等学校	ふくい発、東アジアの発展と希望に貢献するグローバル・リーダーの育成
	山梨県	県立	山梨県立甲府第一高等学校	「主体的に課題を解決できる山梨発グローバルリーダーの育成を目指して」―大学・企業との連携によるグローバルな課題の探究―
	長野県	県立	長野県長野高等学校	観光を核にした国際都市NAGANOを担うグローバルリーダーの育成
	岐阜県	県立	岐阜県立大垣北高等学校	清流の国ぎふ アジアを学び世界をつなぐ1600人のリーダー育成

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

静岡県	県立	静岡県立三島北高等学校	“生命を守る水”プロジェクト～国際的視野から地域課題を解決できるグローバルな人材の育成
愛知県	県立	愛知県立旭丘高等学校	日本再興戦略を支える若手グローバル・リーダー育成に関する研究開発
愛知県	私立	名城大学附属高等学校	高大協働による愛知県産業を基盤にしたグローバルビジネス課題の探究
三重県	県立	三重県立四日市高等学校	三重・四日市から世界へ！新たな価値を創造する国際人育成プログラム
滋賀県	県立	滋賀県立守山中学・高等学校	持続可能な社会を実現する地方自治プロジェクト
京都府	府立	京都府立嵯峨野高等学校	地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ」によるリーダー育成
京都府	市立	京都市立堀川高等学校	「しなやかさ」と「したたかさ」を備えた青年の育成
京都府	私立	立命館宇治中学校・高等学校	社会貢献とイノベーションの志で問題解決に挑む人材を育てる教育システムの研究開発
京都府	私立	立命館高等学校	平和な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す教育システムの研究開発
大阪府	府立	大阪府立北野高等学校	アジアと学び合う―夢を実現する国づくり―
大阪府	府立	大阪府立三国丘高等学校	持続可能な地域開発に貢献できるリーダー育成プログラム
大阪府	私立	関西大学高等部	持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの育成
兵庫県	県立	兵庫県立姫路西高等学校	リベラル・アーツプロジェクト ～世界に飛翔するグローバル・リーダーの育成～
兵庫県	市立	神戸市立葺合高等学校	神戸から綾なせ世界。共生への扉を開くグローバル・リーダー育成
兵庫県	私立	関西学院高等部	国際化重点大学との高大連携による実践的課題解決能力の育成
奈良県	県立	奈良県立畝傍高等学校	奈良発！”未来”を”創造”するグローバル・リーダー育成プログラム
奈良県	私立	西大和学園中学校高等学校	地球規模の課題に挑戦できるグローバルビジネスリーダーの育成
島根県	県立	島根県立出雲高等学校	「自立」と「協働」により、地域・社会の核となるグローバル・リーダーの育成
岡山県	県立	岡山県立岡山城東高等学校	「ステージは『世界』だ！」－異力を統合する城東システムの開発―
広島県	私立	広島女学院中学高等学校	成長目標の共有を通じた生徒・教員協働による高大連携型グローバル人材育成
山口県	県立	山口県立宇部高等学校	やまぐち発！地域から世界を見る広い視野と高い志を育成するプログラム
徳島県	県立	徳島県立城東高等学校	四国徳島発・人類の健康と環境に貢献するグローバルリーダーの在り方について
愛媛県	県立	愛媛県立松山東高等学校	東高 がんばっていきましょいーALL愛媛で育てる世界に羽ばたく人材ー
熊本県	県立	熊本県立済々黌高等学校	国際的素養を備え世界をリードする済々多士教育プログラムの開発
大分県	県立	大分県立大分上野丘高等学校	大分上野丘グローバル・リーダー育成プロジェクト
宮崎県	県立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	中山間地域からグローバル・リーダーを育成する課題研究及び発展的実践

以上 56 校

※構想名は一部変更の可能性有り

さらに、ＳＧＨ事業の構想をより多くの学校に広めていく観点から、ＳＧＨ事業をふまえたグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組む高等学校等54校（国立６校、公立27校、私立21校）が、「ＳＧＨアソシエイト」として位置づけられた。こうして、幹事校が中核的な役割を果たしつつＳＧＨとＳＧＨアソシエイトによる「ＳＧＨコミュニティ」を形成することで、それぞれの学校が進めるグローバル・リーダー育成に資する取り組みを共有するとともに、その実践状況を発信することが

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

企図されている。

ＳＧＨで推進される取り組み

ＳＧＨで推進することが期待されている取り組みは下記のようなものである。

【主な取組】

・グローバル・リーダー育成に資する課題研究（例：国際的に関心が高い社会課題）を中心とした教育課程の研究開発・実践（教育課程の特例の活用を想定）
・グループ・ワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、プロジェクト型学習等の実施（英語によるものも含む）
・海外の高校・大学等（ESD を通じたユネスコスクールを含む。）と連携した課題研究に関するフィールドワーク、成果発表等のための海外研修
・帰国・外国人生徒の積極的受け入れ、大学との連携を通じた外国人留学生とのアカデミックなワークショップ
・大学との連携を通じた、課題研究内容に関する専門性を有する帰国・外国人教員の活用

【大学との連携】

・課題研究に関する指導を行う帰国・外国人教員等の派遣や、大学生によるピアサポート
・国際展開を担当する部署との連携を通じた海外研修等の企画・立案に関するノウハウの伝授
・入試の改善による生徒の学習内容の適切な評価
・単位認定を含む高大連携プログラムの提供

（文科省「平成 26 年度スーパーグローバルハイスクール概要」（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/sgh/__icsFiles/afieldfile/2014/03/28/1346060_03_4_3.pdf）より。）

国際化を進める大学（「スーパーグローバル大学（ＳＧＵ）」等）との連携の下で、また、企業、国際機関（ＯＥＣＤ、ＵＮＥＳＣＯ等）、非営利団体等による人材やプログラムの提供も受けながら、課題研究を中心とした教育課程の研究開発・実践等の取り組みを進めていく。これにより、「グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材（国際機関職員、社会起業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者等）」を輩出することがめざされているのである。

このように、ＳＧＨは英語力向上や国際交流のみを意図するものではない。英語力向上や国際交流をプログラムの一部としながらも、「課題研究」による総合的で探究的な学習が重視されている。英語はコミュニケーションの手段であって、その先に、社会の諸課題に対する関心や責任感、深い教養と確かな見識、批判的思考力や問題解決能力などを備えたグローバル・リーダー像をどう構想し、課題研究の学びとしてどう具体化するかが問われている。

また、大学や企業、国際機関等との連携についても、外部の専門家任せのプロジェ

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

クトに陥ることなく、連携をきっかけに、各高校において、課題研究の継続的な指導体制の構築、教科指導をはじめカリキュラム全体の改善、教師集団の力量形成につなげていくことが期待されている。

グローバル・リーダーに求められる資質・能力をどう考えるか

では、グローバル・リーダー像をどう構想し、課題研究の探究テーマとしてどう具体化していけばよいのか。二つの視点を提起しておこう。

（１）「グローバル人材」と「地球市民」

一つ目は、経済成長だけでなく持続可能性等の社会問題もあわせて考えるという点である。国境を越えて人、物、情報等が行き来するグローバル化は、工業経済から知識経済（知識基盤社会）への転換と結びついている。従来の工業経済では生産要素（資本、労働、土地）への投資が富を生み出してきたのに対して、知識経済では人的資本（情報や知識を活用しイノベーションを起こす個人やチーム）への投資が富を生み出す。特に先進国において、労働市場は、人間にしかできない創造的な仕事（問題発見、研究、デザイン等の高次の思考、異質な他者との協働・交渉、マネジメント等の複雑なコミュニケーション）への需要を高めている。日本の国際競争力を高める文脈で「グローバル人材」が注目される背景には、こういった社会の変化がある。

他方で、科学技術の進歩と結びついた経済成長の追求は、新しい問題も生み出している。経済成長や科学技術の進歩は、洪水、凶作、疾病等の自然現象に起因する生存上のリスクを低減し、多くの人々に生活上の安心や富をもたらしてきた。しかし現在、環境汚染、原子力、遺伝子組み換え等に関わるリスク、すなわち、科学技術が進歩することで生じる人工リスクをどう判断し対処するかが問題となっている。また、グローバルな知識経済は、富の一極集中を生み出しがちである。富やリスクの分配について考え、経済成長のもたらす物質的豊かさを、精神的豊かさや生活の質の充実、成熟社会の実現へとつなげていくことが国際的な課題となっている。

経済成長を担う「グローバル人材」を育てる視点だけでなく、持続可能性・環境保護、富やリスクの分配等の社会問題の解決に向けて国際的に対話・協働・連帯する「地球市民」を育てる視点が必要である。そして、「グローバル人材」にしても、「地球市民」にしても、論争的で正解のない問題について、国境を越えてつながる他者と対話・協働しながら最適解や納得解を導き出していくことが求められるのである。

（２）国際的問題と国内的問題とをつなげて捉える想像力

二つ目に提起しておきたいのは、国際的問題と国内的問題とを関連づける視点の重要性である。公開されているＳＧＨの審査要項にある「グローバルな社会・ビジネスに関する課題」という言葉だけを見ると、グローバル企業、国際紛争、エネルギー問題、開発支援といった、世界的・国際的な大きな課題の探究に重点があるように思われるかもしれない。しかし、国際的問題と国内的問題とをつなげて考える想像力（自分の足もとの一見ローカルな問題の中にグローバルな問題とのつながりを見出し、逆に、他国の出来事の中に自分たちの直面している問題とのつながりを見出す力）がな

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ければ、課題研究は、地に足のついていない「人ごと」の探究（観念的思考）となる危険性がある。グローバル・リーダーの育成が「根無し草の人材」や「国を捨てる学力」に陥らないためにも、この点は重要である。

国際的問題と国内的問題とをつなぐという場合、日本人として、日本の伝統文化のよさを自覚し、日本の強みを発信することは重要であるが、それが「和魂洋才」論的な発想に止まっていては、真のグローバル・リーダーとは言えないだろう。進学や就職などの選択・決定に際して、日本国外の大学を視野に入れて考えたり、自分はどの国や地域で仕事がしたいのかを問うたりすることで、自分の中により大きなスケールの地図を持つことがまずは必要である。その上で、「日本社会をよりよくするために自分に何ができるのか」という日本人としての意識だけでなく、「（日本社会も含めた）世界の人々の生活や社会のあり方をよりよくするために自分に何ができるのか」という地球市民としての意識も持つことで、問題意識を共有する世界中の人々やコミュニティとつながりながら、問題解決に向けて協働することも可能になるだろう。

以上のように、課題研究の探究テーマについては、国際的問題と国内的問題とを内在的に関連付けたり、経済成長だけでなく持続可能性等の社会問題も考慮したりしながら、多面的・構造的に考えていくことが求められる。そして、留学や国際交流の経験は、語学力を鍛えるための経験に止まらず、問題意識を同じくする世界の人たちのコミュニティとつながり、そこからネットワークを構築し、さらには、国際的な問題の解決に向けた議論や活動に直接参画していく手がかりをつかむ経験としても展開されることが重要だろう。

おわりにーＳＧＨ事業が高校教育に投げかける課題ー

最後に、日本の高校教育全体の改革という文脈で、ＳＧＨ事業の意味を述べておきたい。ＳＧＨは、いわゆる成績上位校やエリート校にのみ関連する話のように受け取られるかもしれない。しかし、ＳＧＨは既存の高校教育のあり方に対して一石を投じるものになると考えられる。

「ＳＧＨアソシエイト」を含めれば、「ＳＧＨコミュニティ」の参加校は、ほぼすべての都道府県にまたがっており、その多くは各地域の高校教育をリードする位置にある。何より、ＳＧＨが課題研究を通して育成をめざす、社会課題に対する関心と深い教養、あるいは論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決力、行動力等の資質・能力は、程度の差はあれすべての生徒たちに保障されるべきものであろう。

グローバル・リーダーに限らず、現代社会においては、生活者、労働者、市民として、他者と協働しながら「正解のない問題」に対応する力や、生涯にわたって学び続ける力など、高度な知的・社会的能力が必要とされている。それに伴い、学校教育に対しても、知識を習得させるだけでは不十分で、知識を活用したり創造したりする力や汎用的能力等を育成すべきとの社会的要求が高まっている。

2000年代に入り、初等・中等教育においては、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）の国際学力調査（ＰＩＳＡ）を意識して、知識・技能を活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等の育成に重点が置かれるようになった。また、高等教育でも、「学士

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

力」や「社会人基礎力」といった形で、汎用的能力の重要性が提起されている。これらを受けて、高大接続や大学入試についても、「達成度テスト」で活用力や汎用的能力等を測定する「合教科・科目型」「総合型」試験の導入、総合学習（課題探究型学習）の学習成果や活動歴の入試での活用などが検討されている。

「受験があるから」という理由で教科書の内容を網羅する授業を正当化することは難しくなってきている。そもそも多くの高校生は、すでに勉強から逃走している。目の前の生徒たちにとって学校での学習はどのような意味を持つのか、変化の激しい現代社会をよりよく生きるために何を彼らの中に残したいか。こうした問いを出発点に、総合学習を充実させたり、教科学習のあり方を再考したりすることが求められている。ＳＧＨ事業の意味は、そうした高校教育改革全体の中で理解されねばならない。

参考文献

石井英真「ポスト近代社会が求める人間像と学力像－背景と論点－」『指導と評価』2014年４月号。

※本稿は、『月刊高校教育』（2014年７月号）に掲載された拙稿「ＳＧＨは高校教育に何をもたらすか」を加筆・修正したものである。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.